

令和6年度 麻溝地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和7年2月10日（月）午後7時から午後8時40分まで
- 2 場 所 麻溝公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、奈良副市長、加藤南区長、高林環境経済局長、
小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長、廣田まちづくり推進部長、
岩崎南区副区長、榎本市民局長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 5人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	「次期一般廃棄物最終処分場に係る要望書」における地域との協働について
概要	令和6年11月12日に麻溝地区まちづくり会議より次期一般廃棄物最終処分場に係る要望書を市長に提出した。要望項目は以下のとおり。 1 次期最終処分場の次の最終処分場は造らないこと 2 更なるごみの資源化・減量化を推進すること 3 行政と地域がともに考える地域振興策を実現すること 要望書に記載している内容について、市と地域がどのように連携・協働できるか懇談したい。なお、要望項目3は将来の麻溝地区について、まちづくり会議の各委員が様々な思いを持っており、実現性の可否にとらわれず懇談を実施したい。
地区の取組 状況等	麻溝地区の峰山霊園の前にある現在の一般廃棄物最終処分場は、埋立容量を増やすため、最大20mに及ぶ嵩上げ工事が計画されているが、それでも、現在のペースで埋立てを続けると、令和19年には満杯になると見込まれている。そのため、市は令和4年3月、現在の最終処分場に隣接する麻溝地区の2か所を、津久井地区の2か所とともに次期最終処分場の候補地として選定した。 麻溝地区まちづくり会議では、令和5年5月に「最終処分場部会」を設置し、この問題への対応を検討している。部会では多くの課題が出され、市にも伝えているが、置き去りにされたまま候補地の絞り込みに向けた手続きが進んでいることに対する強い危機感から、昨年11月12日に市長に要望書を出させていただいた。要望書の内容については、お手元に写しをお配りしている。 一番の問題は、最終処分場について、多くの市民は他人事となっていて、何が問題で、自分たちは何をすべきかを理解していないことである。ごみは誰でも出すので、本来は自らの地域で最終的に処分すべきものと思っている。それができず、麻溝地区や津久井地区にお願いせざるを得ないのであれば、自分たちは何をすべきか考えていただきたい。ただ、市民生活に必要な施設だからと言われても、麻溝地区だけが更なる負担を強いられる形では、受け入れは難しいことを理解すべきである。 要望書では、地域振興策についても触れているが、決して、麻溝のエゴで言っている訳ではなく、どんなに立派な施設でも、所詮、最終処分場は迷惑施設に変わりはない。このことから、最終処分場の設置が、総合的に見れば、地域の振興につながるものでなければならない。最終処分場部会では、麻溝からごみの資源

	化、減量化を推進するため、「麻溝発家庭ごみ資源化、減量化推進事業」の実施を計画している。市に一方的にお願いするのではなく、市と地域が連携・協働して取り組んでこそ、この問題の解決策を見つけないことができないと考えている。 今日は、短い時間であるが、率直な意見交換ができればと思う。
市の取組状況等	麻溝地区には市民生活を送る上で必要不可欠な南清掃工場や最終処分場があり、地域の皆様に多大なご理解、ご協力をいただいている。また、次期最終処分場の候補地選定についても、まちづくり会議の下部組織として最終処分場部会を設置され、担当部局との対話や現地視察等を通して、最終処分場の延命化につながるごみの減量化、資源化などについて活発に議論していただいていることに感謝している。 次の最終処分場の整備を行うことは現実的には容易でなく、さらに、その次となると極めて難しい事業になる。そのため、最終処分場の延命化に向けて職員一丸となって真剣に取り組んでいる。具体的には焼却残渣に含まれる金・銀に続く有価物の売却、熔融スラグの利用拡大、焼却残渣の資源化及び更なるごみの減量化、資源化に向けた取組の強化である。現時点で、埋め立てゼロの実現は容易ではないが、将来を見据え、本市にとってふさわしいごみ処理体制を構築していく。 次に2つ目の、さらなるごみの資源化、減量化の推進について、本市の家庭ごみの排出量は年々減少傾向にあり、最終処分場の延命化のほか、脱炭素社会に向けた取組や、ごみ処理費用の抑制などの観点から、一層のごみの減量化、資源化が必要で、様々な啓発等が重要と考えている。主な取組として、5点説明する。 1つ目は、広報、市ホームページ、アプリ運用、SNS等での情報発信、2つ目は啓発事業や環境教育として幅広い層を対象にまちかど講座、出前講座、集積場所での早朝啓発及び各種イベント等へ出展、3つ目は生ごみや食品ロスの削減のため、生ごみ処理容器購入費用の助成や講習会、フードドライブ事業の実施、4つ目にリユースの促進としてリサイクルスクエアでの家具展示や譲渡及び協定締結事業者との連携。 5つ目にプラスチックごみ削減として、マイバッグ、マイボトル等の更なる利用促進や、現在一般ごみとして排出されている製品プラスチックの再資源化について検討している。今後も現状の取組を拡充し、麻溝地区だけではなく、全ての市民にごみの減量化、資源化に取り組んでいただくため、動画配信など効果的で分かりやすい普及啓発を進めていく。また、ごみの有料化や個別収集について、現在、相模原市廃棄物減量等推進審議会で、様々な視点から議論を重ねている。今後、審議内容の公開や課題の整理を行うとともに、様々な意見を踏まえながら、検討を進めていく。 次に、要望項目の3つ目、行政と地域が共に考える地域振興策を実現することについて、麻溝地区では従来からの地域課題として、現在進めている県道52号の拡幅整備や路線バスの充実等のご要望があると認識している。次の最終処分場をお願いする場合には、これらの課題に加え、現在の最終処分場の跡地や麻溝公園周辺を魅力ある場所として未来の地域振興につなげていくため、皆様に様々なご意見をいただきながら、一緒に考えていきたい。 (奈良副市長)

懇談内容	
地区の発言	神奈川新聞に葉山町の生ごみ処理補助事業が掲載されていた。葉山町では、家庭用生ごみ処理機を購入した町民に対し、3万円を上限に購入費用の3分の2を補助しており、生ごみの減量化、資源化を推進するための制度として紹介していた。同町では、35%の世帯が生ごみ処理機で処理している。ごみの削減には、生ごみ処理の問題が関係していると考えるため、相模原市の生ごみ処理機の補助事業やごみ減量、資源化の取組状況を教えてほしい。
市の発言	市では、平成5年度からコンポスト容器の購入費用助成、平成11年度から電動生ごみ処理機購入助成を行っている。特に電動生ごみ処理機については費用が高いため、2万円を上限に、購入費用の2分の1を補助しており、5%程度の世帯に普及している。コンポスト容器は自家消費のために利用することが多いと聞いている。電動生ごみ処理機は、生ごみを乾燥させて小さくできるので、台所で使用の方が多いと聞いている。昨年度、コンポスト容器44台、電動生ごみ処理機206台で合計250台の助成を行った。 例年380万円程度の予算を計上しておりごみの減量化につながるため、助成制度の継続を行っていききたい。（小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長）
地区の発言	減量化を進めていくのであれば、助成額を増やしていけば、減量化が進むと思うので、ぜひ検討して欲しい。
地区の発言	座間市では小田急電鉄と連携しフードリサイクルプロジェクトという取組を行っている。布製のバッグ型コンポストを使い、家庭の生ごみを堆肥化して、そこで出来上がった堆肥を市が回収し、市内の農家で農作物の栽培に活用していると聞いている。布製のバッグを使うため、生ごみ処理機を購入するよりコストもかからず、非常に良いアイデアだと思う。
市の発言	座間市での取組は承知している。バッグ型コンポストの費用は、概ね7,700円程度（バッグ5,500円、コンポスト機材2,200円）で、出来上がった堆肥の一部を市が回収し、1軒の協力農家さんで利用してもらう実証実験を行っていると言っている。堆肥の受け皿である農家さんとの仲介が進めば、普及していくと感じており、今後の参考になる取組と受け止めている。 （小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長）
地区の発言	最終処分場部会では、自分たちが生活するうえで出すごみを削減し、最終処分場をこれ以上造らないように、市民と行政がごみ問題と一緒に取り組む必要があると考える。そのため、麻溝から市全体のごみ削減の取組を盛り上げていきたい。 その第一歩として、要望書の内容とごみ減量のチラシを作成しているので、この場で紹介する。チラシの作成に留まらず、更なる取組が必要と考えている。
地区の発言	私の運営するNPO法人フードコミュニティでは、SC相模原や麻溝小学校PTAと協力して、麻溝小学生でごみの減量化やフードロス講座等の実施を検討している。 昨年12月に田名北小学校の生徒を対象に、家庭内にある余剰食材を集め、高齢者などに寄付を行うフードドライブを実施し、食材の提供を受けると同時に、多くの生徒からフードロスに対する思いを聞くことができた。小学生の内から食品ロスに対する取組を行い、そこから保護者に対して発信していければと思う。

地区の発言	最終処分場候補地の最新の状況を教えて欲しい。
市の発言	最終処分場の候補地は、麻溝地区と津久井地区の各2か所である。麻溝地区の候補地には盛土があり、地中埋設物の有無が心配される場所がある。 そのため、今年度、地主さんの承諾を得て、地中埋設物の調査等を行っている。具体的な調査方法は、過去の航空写真分析や地歴の聞き取りをはじめ、レーダー探査やボーリング調査を行っていて3月末には調査結果がまとまる予定である。 (小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)
地区の発言	調査結果がまとまったら、麻溝地区まちづくり会議にも情報共有をお願いしたい。
地区の発言	津久井地区の候補地の調査はどうなっているのか。既に候補地が麻溝地区に決定したような話がでているが、麻溝地区に決定したとは思っていない。 また、最終処分場を造るのと同時に、ごみの減量化を行う必要があると感じている。雑紙を紙袋に入れ資源ごみに出すと、一般ごみは殆どなくなる。そのような取組をすれば、最終処分場が延命する可能性がある。
市の発言	最終処分場の候補地は麻溝地区に決定した訳ではない。津久井地区の根小屋にも候補地があるが、現状では絞り込みにあたり調査を実施する必要があるのが、麻溝地区の候補地のみとなっている。候補地の条件を十分に見極めながら、最終候補地を検討している状況である。 先ほど、雑紙を資源ごみで出すと、ごみのスリム化に繋がるという提案をいただいた。市では、定期的に家庭ごみの中身の調査を行っている。その結果、資源ごみに該当するものが31%、生ごみと食品ロスを合わせた食品系が29%という状況である。雑紙を資源ごみに出すなど工夫すると相当ごみが減らせると考える。 (小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)
地区の発言	麻溝地区では雑紙対策の実施を検討している。トイレットペーパーの芯など、雑紙を資源として回収できることを周知することが、ごみ減量化に繋がると考える。そのような取組について、市の考えを教えて欲しい、
市の発言	市では、雑紙やごみ分別についての周知に力を入れていきたいと考えており、ごみ減量のために、情報発信の必要性を感じている。令和7年度から「ごみ減量PR室」という専門組織を設置し、ごみ減量のため、効果的な発信を行いたいと考えている。ホームページやパンフレットでは情報が届かない方にも周知を図っていききたいので、アイデアがあればご提案をいただきたい。 (小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)
地区の発言	高齢化が進み65歳以上の5人に1人が単身生活となっている状況で、強引にごみの減量化を進めていくのに違和感を覚える。 お祭りなどのイベントを利用して、市民を巻き込むような形で社会全体のシステムを変えていく必要がある。具体的な方法を考えている訳ではないが、ごみなどの環境問題のイベントを、子どもたちを巻き込んで開催していくのも良いと思う。
市の発言	高齢化が進む中で大事なテーマだと考える。社会のシステムを考慮すると、多世代の交流の機会を作ることが大事であると考えている。 感想の域を出ないが、こうした基盤があれば、地域においては振興策、企業によってはマーケティングにつながる機会にもなる、さらには福祉にもつながって

	いくのではないかと。(小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)
地区の発言	市と協働事業を立ち上げたいと個人的に考えている。 令和7年から3年間位かけて、ごみ減量化、最終処分場問題、地域振興策も含め、新たなまちづくりを行っていききたい。例えば、現在の処分場の跡地利用として、水槽で淡水魚のチョウザメを飼育し、そこで出た糞尿を利用して農業栽培を行うアクアポニックスを行いキャビアや農作物を作ることによって相模原発のブランド化を図っても面白いと思う。これは循環型社会だと思う。 様々なアイデアを出して、意見交換を行いながら一緒に協働事業を行っていききたい。ぜひ検討して欲しい。
地区の発言	プラスチックが体内に取り込まれ健康に悪影響を及ぼすマイクロプラスチックが大きな問題となっている。そのため、商品を生産する企業に対する対策が重要であると考えている。 市は、企業に対しどのようなことを行っているか教えて欲しい。
市の発言	プラスチックは、大きな問題になっている。関連した話題となるが、自動車業界の事例では、2031年にEUで自動車販売を行う場合、自動車に使用する樹脂の25%を再生プラスチックに置き換える規制が設けられると承知している。国内メーカーが販売している自動車台数から推計すると、年間で30万トン程度の再生プラスチックが必要になるが、現時点で国内自動車メーカーが調達できる再生プラスチックは4万トン程度であるため、今後、再生プラスチック市場が盛り上がっていくと想定される。 ごみは生産者から消費者、処理事業者に流れていくため、最終処理と生産者を繋げていかないと、商品が作れない時代になってくる。 再生資源に関連した法律が本年秋から全面施行され、いわゆる動脈産業と静脈産業を直接結び付ける仕組み作りが動き出す。企業も危機感を持ち、再生資源の確保に乗り出していく必要があるため、社会の流れも変わっていくと思う。 また、プラスチックが体内に取り込まれてしまうマイクロプラスチックの問題は別次元の深刻な問題であるが、我々の世代が責任を持って適切に処理を行い、次世代に問題を先送りしないよう取り組む必要がある。 (小山ゼロカーボン・資源循環推進担当部長)
地区の発言	県道52号線の工事について、5年間の先行着手期間の後、間を空けないで工事に着手すると聞いているが、その後のスケジュールの説明が全くないため疑心暗鬼になっている。今後のまちづくりを考えるため、今後のスケジュールを示して欲しい。
市の発言	県道52号は、現在、北里大学病院前の工区とJR相模線のアンダーパスの下溝工区で工事を行っている。今後のスケジュールとして、「第2次相模原市新道路整備計画」において、「優先整備箇所」に位置付けた、現在の工事着手区間に隣接する箇所から順次工事に着手予定である。 下溝地区は、令和11年度に供用開始予定と公表しているが、現時点では、その他の区間の工事完成時期を示すことはできない。「次期検討箇所」に位置付けた区間については、令和8年度に予定している次期新道路整備計画の見直しの中で、検討していく予定である。 (廣田まちづくり推進部長)
地区の発言	地域のまちづくりに大きな影響がある路線のため、スケジュールがわかった

	ら、できるだけ早く教えてほしい。
地区の発言	地域振興策の実現に関連して、地域振興策を実現後、麻溝地区で暮らしていくのは、今の子どもたちだと思う。そのため、麻溝小学校の6年生に麻溝地区について、どのように考えているかアンケートを取ったので、その結果を紹介したい。「麻溝の良いところ」という設問では、相模原公園や相模川などの「豊かな自然」と回答したのが28%、ギオンスタジアム（アリーナ）や市民健康文化センターなど「徒歩で行ける公共施設がある」と回答したのが21%であり、全体の半分を占めている。また「学校以外によく行く場所」という設問でも、「近所の広場や公園」という回答が最も多かった。 また、「大人になった時、麻溝地区でしてみたこと」という設問でも、「仕事をしてみたい」や「子育てや生活をしたい」という回答が大半を占めていた。 最終処分場や家庭ごみの減量化は大切な課題であると思うが、将来、麻溝地区で暮らしていく子どもたちに目を向けた地域振興策についても考えて欲しい。
地区の発言	新屋敷自治会に子ども広場があるが、新屋敷自治会の子どもより、他の自治会の子どもがたくさん来ている。この広場が、住宅地になってしまうと、子どもたちの遊ぶ場所がなくなってしまうので、ぜひ、子ども広場の確保について考えて欲しい。
地区の発言	ギオンスタジアムは麻溝地区の宝だと思う。サッカーや陸上競技をはじめ、高齢者の運転免許証講習会も開催しているが、他にも有効活用を考えて欲しい。 また、交通アクセスが良くないので、原麻駅からシャトルバスを出すなど交通アクセスを改善して欲しい。
市の発言	ギオンスタジアムは、陸上競技場として多くの方が利用している。高齢者の運転免許証講習会など、更なる活用方法を検討したい。交通アクセスの問題では、一部、交通事業者と交渉中であるが、引き続き様々な関係者に要望等を行っていききたい。 また、多くの子どもが相模原麻溝公園を利用している話を聞けて大変嬉しく思う。多くの方に利用してもらうため、今後も環境の維持管理等に努めていきたい。 (高林環境経済局長)
地区の発言	相模大野中央公園には、タリーズコーヒーがカフェを設置する予定と聞いているが、相模原麻溝公園にはそのようなお洒落なカフェはなく、古い喫茶店しかない。相模原麻溝公園にもお洒落なカフェを誘致できないか検討して欲しい。公園利用者の環境作りとして、心を豊かにできる場所の設置が必要だと思う。
市の発言	相模大野中央公園では、市内で初めて「子育て応援公園」という位置づけで、民間事業者さんの協力のもと、タリーズコーヒーの誘致やトイレの改修を行っている。市では、相模原麻溝公園が貴重な場所と認識しているため、相模大野中央公園と同様に、公民連携の手法が実現できないか検討していきたい。 (高林環境経済局長)
地区の発言	市内には物流倉庫が多い。倉庫は無機質で人が近づきにくいところであるが、田名の「ALFALINK相模原」は、多くの人で賑わっている。倉庫内にコンビニや地域住民が無償で利用できるスペースがあり、地元の学生が勉強やフットサルなどで利用している。 今後、物流会社のGLPが、市内に倉庫を作るといことも聞いている。市の

	SDGs パートナーとして、そのような企業と協働し、産地直送の販売などを行うなど、新たな雇用が生まれれば商業的な発展に繋がると思う。また倉庫を利用して、市民が自由に遊べるような環境を作れないか検討して欲しい。
市の発言	ふるさとまつりに去年と一昨年参加したが、中学生が司会をしたり、敬老事業との提携を行うなどの工夫や、「おもしろ防災まつり」といった、とてもユニークな取組を行っているのを見て、麻溝地区はとても熱い地区であると感じた。小さいお子さんが大人になっても「ずっと住みつづけたい」と思えるまちづくりに、地域と連携して取り組んでいきたい。 (加藤南区長)
市長の感想等	皆様の話を聞いて、あらためて地域との対話の重要性を認識した。最終処分場の問題を自分たちの問題として再認識し、引き続き対話を重ね考えていきたい。地域の子どもたちが将来も住み続けたいと思える街づくりを目指し、誤った判断をしないよう取り組んでいきたい。 相模原麻溝公園の目玉としてロング滑り台を設置する計画があるが、今後も麻溝地区の子どもたちが喜ぶようなまちづくりを考えていきたい。そのためにも、市政に対し皆様の意見や提言を遠慮なく伝えてほしい。 (本村市長)